

議 題 福井県とLNG火力発電

委 員 一橋大学大学院 橋川武郎 教授

概 要

- ・東京大学が福井県で2009年から希望学という調査を実施しており、そのメンバーとして嶺南を電力、原子力を中心に考えた。嶺南の調査では「共生すれども、依存せず」という原発に対する気持ちを感じた。原発というものを町のローカルアイデンティティの中でどう相対化していくかということに苦勞している姿が印象的であった。
- ・3.11以降は福井県が当事者になったが、大飯3、4号機の再稼働の過程で、どこに当事者能力があるかが明確になった。本来は当事者能力を担うのは、電気事業者や国であるはずだが、両者に対する信頼が失われた。関西広域連合という消費者からの参加者もあったが、組織もなく限界があった。原発問題で一番重要なことは、危険性と必要性のジレンマについて、どのように現実的な判断を下すかである。
- ・国が掲げた再稼働に向けての基準はストレステストシナリオだったが機能しなかった。局面を打開したのは、暫定安全基準シナリオという福井県の提案である。なぜそうなったかということ、一番問題に直面し、必要性和危険性の前面で悩んでいるところから一番現実的な答えが生まれる。そういうメカニズムが動いた。
- ・大きな話で申し上げると、3.11があったからといって直ちに原発という選択肢を捨てるべきではない。資源小国の日本がここまで来られたのは、多様な電源の選択肢をうまく組み合わせてきたからである。直近のことでは、原発が止まると火力が増え、化石燃料を買わないといけなくなるが、原子力が縮小している日本は買い叩かれている。オプションとしての原子力は残すべき。
- ・長期的に考えると、原子力は使用済み核燃料の処理問題があるため、過渡的なエネルギーであり、リアルでポジティブなたたみ方を考えていかないといけない。推進派には安全神話の根深さ、リアリティの欠如があり、反対派は建設的でポジティブな提案をしこなかった。リアルでポジティブな原発のたたみ方を考えなければならない。
- ・原発は、発電設備は危険だが送電線と変電設備は立派であり、送電線や変電設備を活かしてLNG火力や最新式の石炭火力に置き換えることが現実的な出口戦略になるのではないか。そうすると原発の電源地帯が火力の電源地帯になり、原子力の廃炉ビジネスに伴う雇用もある。

- ・福島事故で注目すべきは、使用済み核燃料を燃料プールに置いておくこと自体が危ないということ。空冷方式なども併せていく必要があるのではないかと。電源三法交付金だけでなく、ゴミの保管料として財政的な措置があつて然るべき。そうすると火力電源、廃炉ビジネスおよび保管料収入の3つで嶺南の市町の未来予想図が描き得る。
- ・2030年のエネルギー政策を考えると、再生可能エネルギーを精一杯やる、省エネで節電する、火力発電の燃料コストを下げ、ゼロエミッション化を進めることが大切。そして不足部分について原発を使うという、引き算方式で原発のウエートを定めるべき。
- ・火力発電は、燃料調達と地球温暖化防止の2つの大きな問題がある。後者については、原子力でCO₂を減らす時代から石炭火力技術を海外に移転し2国間クレジットで減らす時代になり、CCSやIGCCなどの新技術の比率を高めることが中心になる。
- ・LNGの調達ではまとめ買いが大事。
- ・アメリカのシェールガスは、自由貿易協定がネックになり不可能ではないかと言われるが、Non-FTAのインドが買っている。それよりも問題は、アメリカの装置が1基350~450万トン規模であり、これにミートしたまとめ買いの規模となるかである。
- ・天然ガス基盤整備委員会の報告書が昨年6月に発表されたが、そこで4つのパイプラインルートが示されており、福井に関係するのが長岡-彦根ラインである。日本のLNG需要の62%はLNG火力発電であり、火力発電所ができるかどうか重要。現計画の富山まででは、北陸に天然ガスラインは延びないが、敦賀にLNG火力ができると一気に北陸のガスパイプラインが現実性を帯びてくる。スマートコミュニティの観点から、熱と電気を有効利用する分散型のエネルギー供給網を作るという意味からも、敦賀にLNG火力ができることは重要である。
- ・基本問題委員会では、原発依存度の4シナリオを設けたが、注目は数字を示す3シナリオ全てがコージェネ電力を15%へ引き上げる点で一致していること。工場で熱を有効利用するだけでは足りないため、ビルにも住宅にも太陽光電池を載せて、燃料電池、蓄電池を置いてスマートメーターを入れていく。これを進める上で、敦賀港にLNG火力を持っていくことがプロジェクトを進めるトリガーとなる。
- ・原発の出口戦略でLNG火力の話をする、原発をたたむためだと聞こえるかもしれないが逆である。原発をたたむことは2050年くらいを想定していて、それまでは安全な原子力とLNG火力、石炭火力をうまく使う時代が来る、その典型が福井県。原発立地県こそ電源多様化が重要である。